

議第 十九 号

栃木県議会議規則の一部改正について

右の議案を別紙のとおり、栃木県議会議規則第十五条第一項の規定により提出します。

平成三十一年三月十二日

提出者

栃木県議会議員

三森 文徳

亀田 清

山口 恒夫

中屋 大

同

塩田 ひとし

同

齋藤 剛郎

同

増山 敬之

同

関谷 暢之

同

横松 盛人

同

斉藤 孝明

同

相馬 憲一

同

高橋 文吉

栃木県議会議長

五十嵐

清

様

栃木県議会議規則の一部を改正する規則

栃木県議会議規則（昭和二十七年栃木県議会議規則第一号）の一部を次のように改正する。  
次の表の改正前の欄に掲げる規定を同表の改正後の欄に掲げる規定に傍線で示すように改正する。

改正後	改正前
<p>（参集）</p> <p>第一条 議員は、開議定刻前に議事堂に参集し、その旨を議長に通告しなければならない。</p> <p>2 略</p> <p>第二条 削除</p> <p>（議席）</p> <p>第五条 略</p> <p>2 略</p> <p>3 議長は、必要があると認めるときは、議席を変更することができる。</p> <p>4 略</p> <p>（事件の撤回又は訂正及び動議の撤回）</p> <p>第二十條 会議の議題となつた事件を撤回し、又は訂正しようとするとき及び会議の議題となつた動議を撤回しようとするときは、議会の許可を得なければならない。ただし、会議の議題となる前に、前項の許可を得なければならぬ。</p> <p>2 前項の許可を求めようとするときは、提出者から事件については文書により、動議については文書又は口頭により、請求しなければならない。</p> <p>第二十六條 略</p> <p>（不在議員）</p> <p>第二十六條の二 選挙を行う宣告の際、議場にいない議員は、選挙に加わることができない。</p> <p>（議場の出入口閉鎖）</p> <p>第二十七條 投票による選挙を行うときは、議長は、第二十六條（選挙の宣告）の規定による宣告の後、職員をして議場の出入口を閉鎖させ、出席議員数を報告する。</p> <p>（投票）</p> <p>第二十九條 議員は、職員の点呼に応じて、順次、投票する。</p>	<p>（参集）</p> <p>第一条 議員は、招集日の開議定刻前に議事堂に参集し、その旨を議長に通告しなければならない。</p> <p>2 略</p> <p>（通告の方法）</p> <p>第二条 議員は、招集に応じたときは、応招簿に押印し、以後出席したときは、出席簿に押印しなければならない。</p> <p>（議席）</p> <p>第五条 略</p> <p>2 略</p> <p>3 議長は、必要があると認めるときは、討論を用い、議席を変更することができる。</p> <p>4 略</p> <p>（事件の撤回又は訂正及び動議の撤回）</p> <p>第二十條 会議の議題となつた事件を撤回し、又は訂正しようとするとき及び会議の議題となつた動議を撤回しようとするときは、議会の承認を得なければならない。</p> <p>2 議員が提出した事件及び動議で前項の承認を求めようとするときは、提出者から請求しなければならない。</p> <p>第二十六條 略</p> <p>（議場の出入口閉鎖）</p> <p>第二十七條 投票による選挙を行うときは、議長は、第二十六條（選挙の宣告）の規定による宣告の後、議場の出入口を閉鎖し、出席議員数を報告する。</p> <p>（投票）</p> <p>第二十九條 議員は、職員の点呼に応じて、順次、投票を備え付けの投票箱に投入する。</p>

<p>(開票及び投票の効力)</p> <p><b>第三十一条 略</b></p> <p>2 前項の立会人は、議長が、議員の中から指名する。</p> <p>3 略</p> <p>4 投票の効力は、立会人の意見を聴いて議長が決定する。</p>	<p>(選挙結果の報告)</p> <p><b>第三十二条 略</b></p> <p>2 議長は、当選人に当選の旨を告知しなければならない。</p> <p>(委員長及び少数意見の報告)</p> <p><b>第四十条</b> 委員会が審査又は調査をした事件が議題となつたときは、委員長がその経過及び結果を報告する。</p>	<p>2 <b>第七十五条(少数意見の留保)</b> 第二項の規定による手続を行つた者は、前項の報告に次いで少数意見の報告をすることができる。この場合においては、少数意見が二個以上あるときの報告の順序は、議長が定める。</p> <p>3 前二項の報告は、議会の議決により、又は議長において委員会の報告書若しくは少数意見報告書を配布し、若しくは朗読したときは、省略することができる。</p> <p>4 略</p>	<p>(委員会の中間報告)</p> <p><b>第四十五条</b> 議会は、委員会の審査又は調査中の事件について、特に必要があると認めるときは、中間報告を求めることができる。</p> <p>2 委員会は、その審査又は調査中の事件について、特に必要があると認めるときは、議会の承認を得て、中間報告をすることができる。</p> <p>(再審査のための付託)</p> <p><b>第四十六条</b> 議会は、委員会の審査又は調査を経て報告された事件で、なお審査又は調査の必要があると認めるときは、更にその事件を同一の委員会又は他の委員会に付託することができる。</p> <p>(発言の許可等)</p> <p><b>第四十八条</b> 発言は、全て議長の許可を得た後、登壇してしなければならない。ただし、発言が簡単の場合その他特に議長が許可したときは、議席</p>		
<p>(開票及び投票の効力)</p> <p><b>第三十一条 略</b></p> <p>2 前項の立会人は、議長が、議員の中から会議にかつて指名する。</p> <p>3 略</p> <p>4 投票の効力は、立会人の意見を聞いて議長が決定する。</p>	<p>(選挙結果の報告)</p> <p><b>第三十二条 略</b></p> <p>(委員長及び少数意見の報告)</p> <p><b>第四十条</b> 委員会が審査又は調査をした事件が議題となつたときは、委員長がその経過及び結果を報告し、次いで少数意見者で第七十五条(少数意見の留保)第二項の手続を行なつた者が少数意見の報告をする。</p> <p>2 少数意見</p>	<p>が二個以上あるときの報告の順序は、議長が定める。</p> <p>3 第一項の報告は、議会の議決により、又は議長において委員会の報告書若しくは少数意見報告書を配布し、若しくは朗読したときは、省略することができる。</p> <p>4 略</p>	<p>(委員会の中間報告)</p> <p><b>第四十五条</b> 議会は、委員会の審査又は調査中の事件について、特に必要があるときは、中間報告を求めることができる。</p> <p>(再審査のための付託)</p> <p><b>第四十六条</b> 委員会の審査又は調査を経て報告された事件で、なお審査又は調査の必要があるときは、議会は、更にその事件を同一の委員会又は他の委員会に付託することができる。</p> <p>(発言の許可等)</p> <p><b>第四十八条</b> 発言は、すべて議長の許可を得た後、登壇してなければならない。ただし、簡易な事項については、議席</p>		

<p>で発言することができる。</p> <p>2 略</p>	<p>(発言の取消し又は訂正)</p> <p><b>第六十二条</b> 議員は、その会期中に限り、議会の許可を得て、自己の発言を取り消し、又は議長の許可を得て、発言の訂正をすることができる。ただし、発言の訂正は、字句に限るものとし、発言の趣旨を変更することはできない。</p> <p>2 議員は、前項の規定により自己の発言を取り消し、又は訂正しようとするときは、当該発言の後できるだけ速やかに、議長にその旨を申し出なければならない。</p>	<p>(起立等による表決)</p> <p><b>第八十条</b> 議長は、表決を採らうとするときは、問題を可とする者を起立させ、起立者の多少を認定して可否の結果を宣告する。</p> <p>2 議長が起立者の多少を認定しがいとき、又は議長の宣告に対し出席議員五人以上から異議があるときは、議長は、記名又は無記名の投票で表決を採らなければならない。</p> <p>3・4 略</p>	<p>(選挙規定の準用)</p> <p><b>第八十三条</b> 記名投票又は無記名投票を行う場合には、第二十七条(議場の出入口閉鎖)、第二十八條(投票用紙の配布及び投票箱の点検)、第二十九條(投票)、第三十条(投票の終了)、第三十一条(開票及び投票の効力)、第三十二条(選挙結果の報告)第一項、第三十三条(選挙に関する疑義)及び第三十四条(選挙関係書類の保存)の規定を準用する。</p> <p>(請願書の記載事項等)</p> <p><b>第八十七条 略</b></p> <p>2 請願書の提出は、平穏になされなければならない。</p>	<p>(請願の紹介の取消し)</p> <p><b>第八十七条之二</b> 議員が請願の紹介を取り消そうとするときは、会議の議題となつた後においては議会の許可を得なければならない。ただし、会議の議題となる前においては、議長の許可を得なければならない。</p> <p>2 前項の許可を求めようとするときは、文書により請求しなければならない。</p> <p>(請願の審査報告)</p>	
<p>で発言することができる。</p> <p>2 略</p>	<p>(発言の取消)</p> <p><b>第六十二条</b> 議員は、その会期中に限り、議会の許可を得て、自己の発言を取り消すことができる。</p> <p>2 議員は、前項の規定により自己の発言を取り消そうとするときは、当該発言の後できるだけ速やかに、議長にその旨を申し出なければならない。</p>	<p>(起立等による表決)</p> <p><b>第八十条</b> 議長が表決を採らうとするときは、問題を可とする者を起立させ、起立者の多少を認定して可否の結果を宣告する。</p> <p>2 議長が起立者の多少を認定しがいとき、又は議長の宣告に対し出席議員五人以上から異議があるときは、議長は、記名又は無記名の投票で表決を採らなければならない。</p> <p>3・4 略</p>	<p>(選挙規定の準用)</p> <p><b>第八十三条</b> 記名投票又は無記名投票を行う場合には、第二十七条(議場の出入口閉鎖)、第二十八條(投票用紙の配布及び投票箱の点検)、第二十九條(投票)、第三十条(投票の終了)、第三十一条(開票及び投票の効力)、第三十二条(選挙結果の報告)第三十三條(選挙に関する疑義)及び第三十四条(選挙関係書類の保存)の規定を準用する。</p> <p>(請願書の記載事項等)</p> <p><b>第八十七条 略</b></p> <p>2 略</p>		

<p><b>第九十一条</b> 委員会は、請願について審査の結果を次の区分により 議長に報告しなければならない。</p> <p>一・二 略</p> <p>2  委員会は、必要があると認めるときは、請願の審査結果に意見を付けることができる。</p> <p>3  略</p> <p><b>第九十五条</b> 略</p> <p>(議長及び副議長の辞職)</p> <p>2 前項の辞表の提出があつたときは、その旨議会に報告し、討論を用いなくて会議に諮つて、その可否を決める。</p> <p>(資格決定の要求)</p> <p><b>第九十七条</b> 法第二百二十七条第一項の規定により議員の被選挙権の有無又は法第九十二条の二の規定に該当するかどうかについて議会の決定を求めようとする議員は、その理由を記載した要求書を証拠書類とともに議長に提出しなければならない。</p> <p>(議長の秩序保持権)</p> <p><b>第一百六条</b> 法又はこの規則に定めるもののほか、規律に関する問題は、議長が定める。ただし、議長は、必要があると認めるときは、討論を用いなくて会議に諮つて決める。</p> <p>(会議録に掲載又は記録しない事項)</p> <p><b>第一百十六条</b> 前条の会議録には、秘密会の議事並びに議長が取消しを命じた発言及び第六十二条(発言の取消し又は訂正)の規定により取り消した発言は、掲載又は記録しない。</p> <p>(会議規則の疑義)</p> <p><b>第二百二十条</b> この規則の施行に關し疑義が生じたときは、議長が決める。ただし、異議があるときは、会議に諮つて決める。</p>	<p><b>第九十一条</b> 委員会は、請願について審査の結果を次の区分により意見を付け、議長に報告しなければならない。</p> <p>一・二 略</p> <p>2  略</p> <p>(議長及び副議長の辞職)</p> <p><b>第九十五条</b> 略</p> <p>2 前項の辞表は、議会に報告し、討論を用いなくて会議にはかつてその可否を決める。</p> <p>(資格決定の要求)</p> <p><b>第九十七条</b> 法第二百二十七条第一項の規定により議員の被選挙権の有無又は法第九十二条の二の規定に該当するかどうかについて議会の決定を求めようとする議員は、要求の理由を記載した要求書を証拠書類とともに議長に提出しなければならない。</p> <p>(議長の秩序保持権)</p> <p><b>第一百六条</b> すべて規律に関する問題は、議長が定める。ただし、議長は、必要があると認めるときは、討論を用いなくて会議にはかつて決める。</p> <p>(会議録に掲載しない事項)</p> <p><b>第一百十六条</b> 前条の会議録には、秘密会の議事並びに議長が取消しを命じた発言及び第六十二条(発言の取消し)の規定により取り消した発言は、掲載しない。</p> <p>(会議規則の疑義)</p> <p><b>第二百二十条</b> この規則の疑義は、議長が決める。ただし、異議があるときは、会議にはかつて決める。</p>
---	--

附 則

この規則は、平成三十一年四月一日から施行する。